



【コライト】ペーパー版
2022.1 WINTER



gri.jp/media/



右脳と左脳と前頭葉

言わずもがな。脳の働きがマズイ。

右脳前頭葉は、「感情。情緒。本音。人情。アナログ。アクセラ」
左脳前頭葉は、「理性。論理。建前。義理。デジタル。ブレーキ」

株式会社 GRI
代表取締役 CEO 上野勉

1950年代のロジャー・スペリーの研究から、人間の脳の働きは、左右の脳の間でケーブルがあって互いに連絡し合って機能していることがわかってきた。犬や猫は話すことはなく、それは左脳前頭葉がないからであって、これで脳の発達の順序がわかり、左脳前頭葉の存在は人間特有のものだとわかる。*1
データサイエンスの従事者は、どちらかと言えば左脳が発達していて、感情を表に出さない論理的な動物だ。しかし、人間の本能は、欲にまみれた右脳にあるのであって、世の中の素晴らしい商品は、この右脳に突

き刺さった本能をくすぐるモノのはずだ。そのように考えると、この右脳と左脳を行ったり来たりすることは非常に重要で、しかしその働きを深いレベルで成せるのは、なかなか難しい。右脳では、ベースボール界の常識を覆してやろうと大谷翔平の野心が狙ってる。左脳では、どのようなトレーニングをすれば本塁打王と最多勝を同時に取れるかを科学的に考える。しかし、これはかなりの例外である。

ひとりの人間でやり遂げるのが難しいのであれば、チームワークでやるのはどうだろうか。果たして、ステイヴ・ジョブスとステイヴ・ウォズニアックはどのような関係だったのだろうか。私の右脳前頭葉は、そのような彼らの姿に強烈に憧れる。次に、私の左脳前頭葉は、どうやったらそのようなチームワークが可能になるのかを論理的に考える。私が経営させて頂いている会社組織の目指すべき到達点はそこだ。言うのはたやすく、創業以来10年間経て、できた試しがない。そのようなことなので、皆さんにもぜひとも一緒に考えて頂きたい、このペーパーを届けた次第である。

【参考】*1 大阪大学名誉教授・工学博士 新津靖氏のサイトより



創造力を取り戻そう、
アート思考。

現状を憂うのは、将来に望みがあるからである。人間には論理的な側面と、創造的な側面があるとして、1人の人間の中に内在しないものだろうか。論理的な能力は鍛えられても、創造力は訓練できないのだろうか。

日々そのようなことを考えて周りを見渡してみると個人的な人が沢山いるではないか！なんで、みんな出し惜しみをするのだ！職場では澄ました顔した常識人の仮面の下にかなり変態な子供の頃から培った独特の嗜好があるではないか。

私たちは、ひょっとしたら忘れてしまっただけなのかも知れない。自分勝手に想像して、世の中に問うということを、それを取り戻すための、アート思考であり、ビジョンであり、意志(Will)である。私たちにその覚悟があるかと問われると心もとない。いや、覚束ない。そのようなわけで、私たちは世間の人たちに背中を押して貰える方法を選んでみた。押しつけて貰うのが厚かましいのなら、蹴とばして貰うので結構。いつか、この上ない創造物を見つけてやる。

コライトとは

CO-WRITE (コライト)とは、さまざまな個性の人が「アートサイエンス」を追求し、アイデアを出し合える場、刺激し合える場を目指して立ち上げたCOのオウンドメディアです。

アートサイエンスは「常識に捉われないビジョンを、サイエンスの裏付けを以って現実化する思考」を意味し、執筆者、読者がそれぞれに自由な発想でアートサイエンスを実現します。

□と「アートサイエンスで」○△□「する」のコピーには、形や色、それぞれ別の意味を成すものを組み合わせ、「自由に新しいものを生み出す・見つける」という意味合いを込めています。



アートサイエンスで「○△□」する

gri.jp/media/



Promotion Movie



YouTube
"GRIチャンネル"で
観ることができます!!

現実の世界で経験した"壁"を打ち破る提案型ムービー



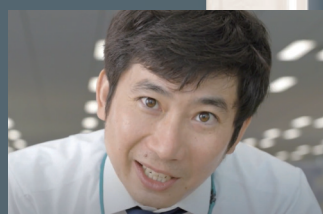
分析モデル編

分析官の仕事は分析モデルを作るのが
中心的な業務であるけれど、
分析官によるスキルの格差が
あるのも事実である



組織改革編

分析の結果を意思決定に
活かさない組織はあまりにも多く、
組織的なリテラシーの改善を試みるべきである



システム構築編

分析基盤を作る
コストを軽くするには、
外部のツールを組み合わせる
センスが必要である



事業開発編

新しい事業のネタは
身近なところから発生し、
テクノロジーがそれを実現すると
認識すべきである



分析専業会社GRIが開発したAI予測ツール
「ForecastFlow」は何がいいのか



ForecastFlow とは？

テーブル構造のデータを入力することで、モデル構築から精度評価と
挙動の解釈、予測運用までを自動化するクラウド AutoML サービス

2022: ForecastFlow 創りたい世界

～ 予測で世界は変えられる～

ベストプラクティスを集約

GRIは業界を横断してデータ活用をすすめてきた。この経験から得られた
知見を基に、各業界それぞれの課題を精査しベストプラクティスを集約させ
てサービスを生み出そうとしている。その一つがForecastFlowである。



予測業務を自動化し
本質的な議論に注力できる世界

未来を創造する方法は大きく分けて
二つある。あるべき姿を思い描き、
未来を起点にして逆算的に考えるバ
ックキャストイングと過去や現在を
基点にして堅実に積み上げて創るフ
ォークキャストイングである。フォ
ークキャストイングは、技術の進展によ
り高速度かつ高精度に予測が可能にな
っているが、バックキャストイング
はまだまだヒトが行うべき仕事であ
る。

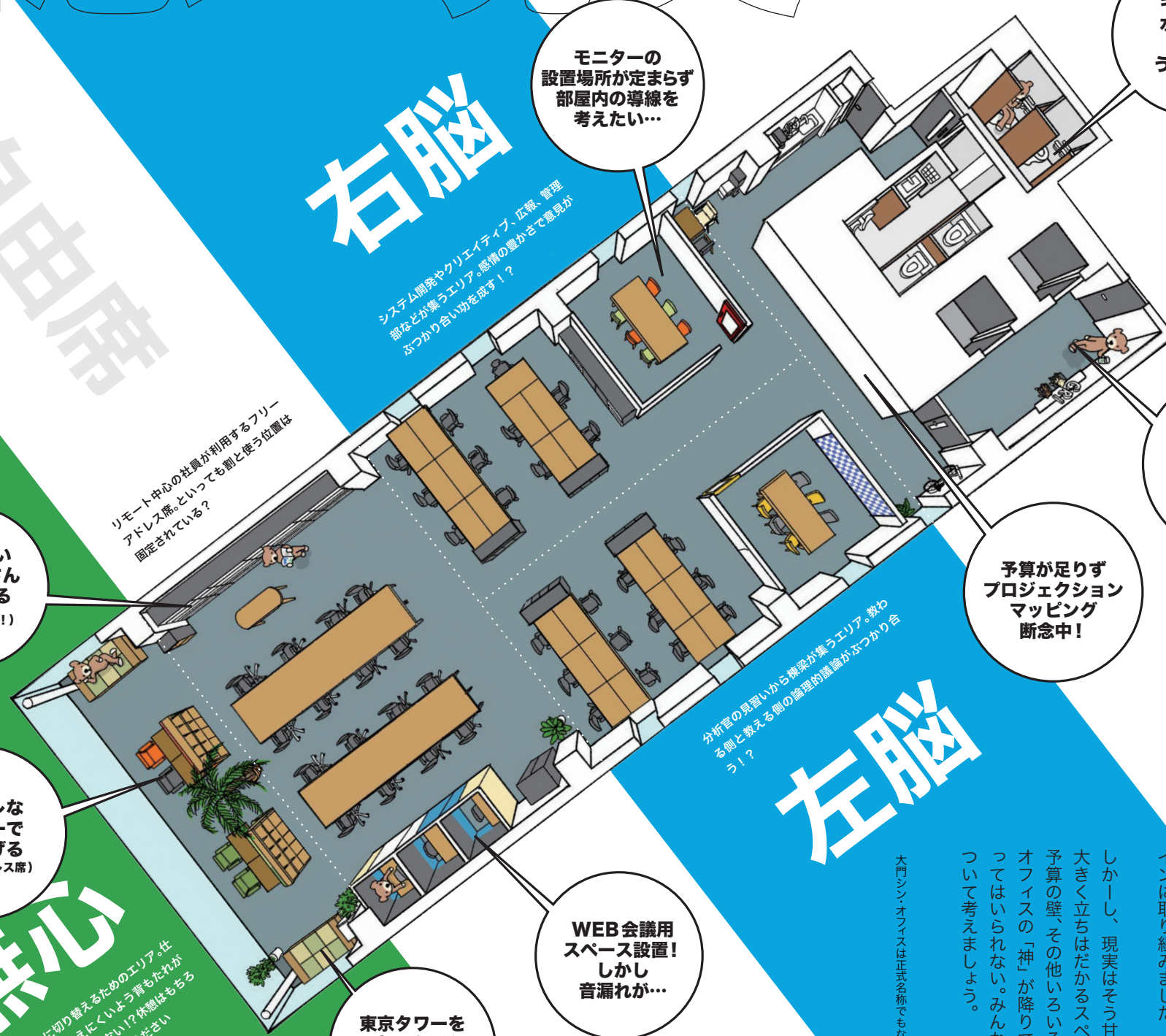
これからのデータサイエンティスト
はこのあるべき未来の姿と現状の延
長線上の未来のGAPをどのように
埋めるべきかを本質的な課題として
捉えてアプローチしていくのがいい
のではないかと考えている。この議
論をする時間を増やすというのが、
ForecastFlowで狙っている世界観
であり、これは機械学習をつまく活
用すれば可能なはずである。

理想と現実

無心

右脳

左脳



むずかしい本がたくさん並んでいる
(借りたら返却!)

リモート中心の社員が利用するフリーアドレス席。といっても割と使った位置は固定されている?

オシャレなソファでくつろげる
(通称ファミレス席)

モニターの設置場所が定まらず
部屋内の導線を考えたい...

キレイな水回りはとてもうれしい!

クマたちが無駄にお出迎えするエントランス

予算が足りず
プロジェクションマッピング
断念中!

WEB会議用スペース設置!
しかし音漏れが...

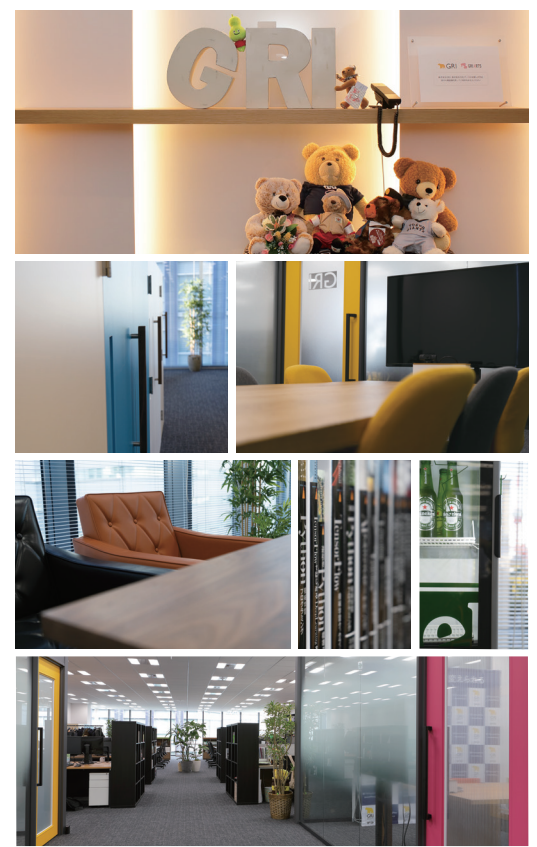
東京タワーを一望しながらビールが飲める!
(18時半以降)

分析官の見える側から議論が集うエリア。教わる側と教える側の論理的議論がぶつかり合う!?

大門シン・オフィスは正式名称でもなんでもありません

しかし、現実はその甘くはない...。大きく立ちはだかるスペースの制約、予算の壁、その他いろいろ...。オフィスの「神」が降りてくるのを待つてはられない。みんなで働き方について考えましょう。

現在もこれからも、働き方としての流れは多様性という言葉とともに、リモートワークへ加速しつつあります。それでも同じ場所・時間を共有し、リアルなコミュニケーションや摩擦から生まれるアイデアは、やがてコラボレーションとなり、新たな事業と価値観を自分たちにもたらせてくれます。これは、私たちが大切にしていることの一つです。



社員数に対し席が足りない!?

大門シン・オフィス



勉強会の目的は、新しいビジネスを創造する起業家精神を持ったイノベーター人材を育てることです
 基礎とは、自身の学びから得られる知識・技能のことで、それらは新たな実践と方法論によって、新たな価値 (Value) が生み出されます
 もくもく会で知識・技能を学び、すいすい会で実践的な方法論や価値観と一緒に考える場としていきたいと考えています

GRIの勉強会とは?

クマ: 上野勉



データサイエンス すいすい会

水曜
開催

講師: 古幡雅史

データサイエンスに関する議論を通して、すいすいデータサイエンスを理解できるような知見を貯めていく「オンライン雑談会」です
 実践的に機械学習を活用できるようにノウハウの共有、そして、自社が開発しているクラウド AutoML (自動機械学習) サービス「ForecastFlow」についてご紹介します



木曜
開催

データサイエンス もくもく会

講師: ヤンジャクリン

人工知能、機械学習、データ分析、ディープラーニングなどを題材に、もくもく教養を身につけていく「課題参加型オンライン勉強会」です
 毎回、課題を提供し、参加者全員で「スキルを身につけていく」ことを目指します
 毎回異なるトピックと一緒に勉強していきましょう!!!



GRI Online Community

読者の声 理解できる 図説が多め 良書 実践力のお勧め 社会で応用できる AI系の基礎知識



GRIが提供するデータサイエンスの教材 2,860冊 正統派 入門書



完全バイブル!!

Smart Survey de 見る

これから!?

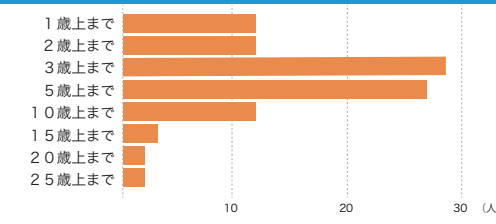
SmartSurveyは、ユーザーが独自のアンケートを作成し、実施することができる画期的なオンラインサービスです。
 しかも、Webサイトで全面的に公開されたアンケート結果から、思わぬ「未来」を発見することができます。



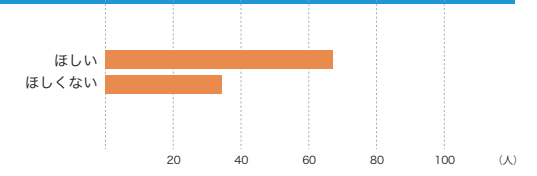
Winters Theme



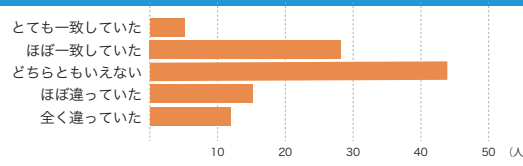
何歳年上までが恋愛対象ですか?



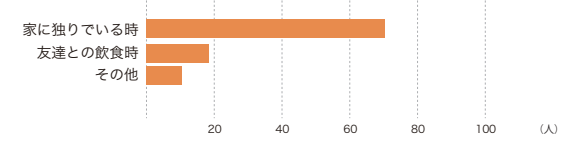
新たな出会いがほしいですか?



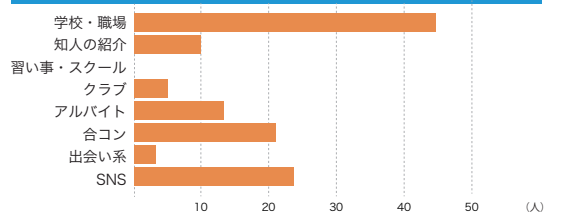
趣味はどの程度一致しましたか?



新たな出会いがほしい瞬間はどんな時ですか?



出会いのきっかけとなった場所はどこですか?



【説明】

昨今、急激に仕事のオンライン化が進むと同時に、「出会い」もオンライン化が進んでいるようです。幅広い年齢層、多種多様な人に出会うことができる仮想空間「メタバース」であれば、必然的に趣味嗜好が合う人とめぐり会う可能性が高くなるでしょう。データから読み取れる解釈としては「出会い」にオンラインによる手段が加わったという事でしょうか。年齢の幅や趣味の一致なども含めて、多様性が顕著になった時代だと思います。

今年はこちらなる! 2022



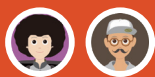
最初に断っておくとこれは予測というより意志 (will) であって、あくまで弊社の取り巻く環境の変化を捉えて「次はこうなる！」と考えた結果からの行動計画を示したもので、そういう意味では、読者の皆さまにもあながち『当てはまらないものではない』という気がしています(長い！)

- ①優秀な人材の取り合いから人件費が高騰し、データサイエンティストの『**個人事業主化**』がますます進む
- ②DX 推進に飽きて新規事業に目覚めた企業が、結果を出せずに新たな『**問題意識**』が高まる
- ③これまでのイノベーションごっこから、本気で外部人材・外部企業と連携する新たな『**カンパニー化**』が始まる

①と②はすでに顕在化しているものが加速化し、③はこれから新たな試みがなされるだろうと考えています。それに先んじて、我々が準備しているのが『イノベティブな人材育成』であり、人的・資本的交流を推進する『業務提携先』の募集になります。

でもまあ、何を言っているかは具体的にしないとわかりませんよね笑。ということで、2022年に起こることに期待しつつ、一緒に動き出しましょう！

編集後記 (広報より)



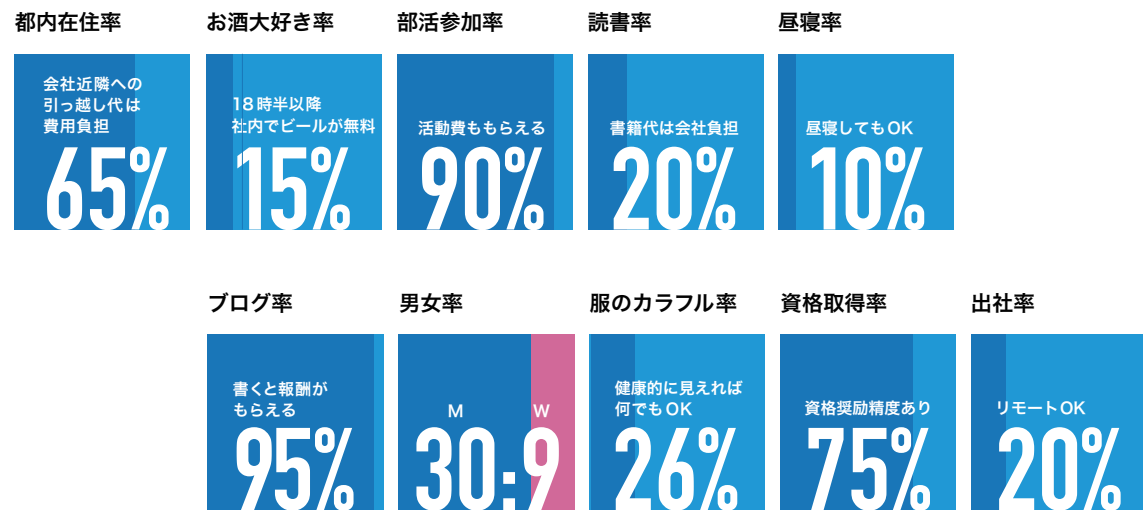
CO-WRITE (コライト) は、「アートサイエンス」を追求し、アイデアを出し合う場、刺激し合える場を目指して立ち上げた GRI のオウンドメディアです。「アート」と「サイエンス」、「デザイン」と「テクノロジー」など色々な捉え方があ

るなか、GRI は「アートサイエンス」という言葉を選びました。「常識に捉われないビジョンを、サイエンスの裏付けを以って現実化する思考」と意味付け、実践することを重視しています。このペーパー版も誰かの「紙にしちゃう？」の一言で始まりました。まずはやってみる！ GRI の行動力を価値に変えられたら幸いです。

我ら自身を知ることが、組織の文化を作る一歩につながるのだから、
「タ」も含めて我らの会社の制度を分析しようではないかっ



コしがおおお..
ジイアアルアイツ
だくまおおお!!



**ロゴとユニフォームもある
フットサル部**

1、2ヶ月に一度くらいのペースで、対戦相手を募集して都内・川崎エリアのフットサル場でゆる〜く活動しています。初心者から本格派、社外、幽霊部員も入れると15名を越える大所帯です。

エンブレムとユニフォームは、弊社デザイナーが作成しました。部活は社外の方も参加できます！